

# 今年のにわとり 春びなの統計

第1表 発生羽数

(単位百羽)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	1~6月計	ふ化率	
鑑別し たもの の計	めす	4,114	9,800	14,535	13,628	5,274	2,266	49,617	—
	おす	4,209	10,068	14,882	14,023	5,440	2,328	50,950	—
	計	8,323	19,868	29,417	27,651	10,714	4,594	100,567	—
鑑別しないもの	423	369	386	625	753	767	3,323	—	
合計	8,746	20,237	29,803	28,276	11,467	5,361	103,890	69.7%	
割合 %	8.4	19.5	28.7	27.2	11.0	5.2	100.0	—	
対前年比 %	137.6	137.8	113.8	144.2	197.0	222.6	138.4	103.4	

第2表 品種別発生羽数

	白色レグ ホーン	横はん プリマス ロック	ロード アイラン ドレッド	ニューハ ンプシャ ー	ホワイト プリマス ロック	ロード ホーン	ロック ホーン	ハンプ ホーン	その他	総数
実数 (百羽)	60,897	2,419	17	3,270	108	734	16,572	8,048	11,825	103,890
総数に対する割合 %	58.6	2.3	—	3.1	0.1	0.7	16.0	7.8	11.4	100.0
前年同期総数に対する割合 %	64.7	2.4	—	2.3	—	5.7	17.4	6.3	1.2	100.0

第3表 鑑別めす (1)

(単位百羽)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計	対前年比
鑑別めす発生羽数	4,114	9,800	14,535	13,628	5,274	2,266	49,617	136.1%
総出荷羽数	4,125	9,447	14,586	13,654	5,308	2,260	49,380	136.6
県内出荷羽数	1,092	4,312	8,229	8,050	1,515	457	23,655	147.4
県外出荷羽数	3,033	5,135	6,357	5,604	3,793	1,803	25,725	127.9

第3表 (2)

(単位百羽)

	総出荷 羽数	県内 出荷羽数	県外出荷羽数					
			総数	近畿	九州	中国	関東	北海道、東北、北陸、東海、四国
35年	49,380	23,655	25,725	8,137	7,339	4,162	2,844	3,243
割合	100.0	47.9	52.1	—	—	—	—	—
合計	—	—	100.0	31.6	28.5	16.2	11.1	12.6

(イ) 今回の調査結果によれば、本年1月から6月までの6ヵ月間に人工ふ化した春びなは 103,890 百羽で、これを月別にみると3月が 29,803 百羽で最も多く総発生羽数の 28.7%を占め、以下4月 (27.2%) 2月 (19.5%) 5月 (11.0%) 1月 (8.4%) 6月 (5.2%) の順となっている。

(ロ) 発生ひな羽数を前年同期と比較すると 38.4%、実数にして 28,829 百羽の増加となっている、このことは昨年来からの鶏卵市場の好況、ブロイラー用若鶏の需要増、更には最近の集団養鶏等、飼養羽数の規模が大きくなり、漸次副業養鶏より専業養鶏に移

前頁の家畜飼養状況と同時に農林省岡山統計調査事務所では、今年の1月から6月までの間に発生した県下の人工ふ化春びなの発生と移動の状況を次のとおり発表しました。

## 1. 発生羽数

りつつある傾向を反映しているものと考えられる、この増加を月別にみると各月とも前年4月に比し増加している

が特に6月 (122.6%増) 5月 (97.0%増) が著るしく約2倍となっている。

(ハ) 発生ひなのうち鑑別されたものは発生羽数の 96.8%に当り、鑑別されなかったものは 3.2%である。鑑別ひなのうちめすが 49.3%おすが 50.7%でおすが僅かに多い。

## 2. 品種別発生羽数

(イ) 1月~6月の品種別発生羽数を多い順にみると白色レグホーンが 60,897 百羽で最も多く、全体の 58.6%となっている、次いでロックホーン (16.0%) その他 (11.4%) ハンプホーン (7.8%) ニューハンプシャー (3.1%) 横はんプリマスロック (2.3%) ロードホーン (0.7%) ホワイトプリマスロック (0.1%) ロードアイランドレッドの順となっている、その他の品種が 11.4%を占めているがこれは三原雑種、ゴールデンネック、フクダライン等の交雑種 (肉

## 岡山畜産便り 1960.11・12

用)である。

(ロ) 近年標準種が減少し、一代雑種等が増加する傾向にある、前年同期に総数の 64.7%であった白色レグホーンが今年は 58.6%で 6.1%の減少となっている。その他の品種が本年は著しく増加しているが、これは最近特に盛んになった食肉用鶏飼養のための食肉専用種である。

### 3. 移動状況

(イ) 鑑別のめす 49,617 百羽のうち出荷されたものは 99.5%に当る 49,380 百羽であり、鑑別したもののほとんどが初生びなとして出荷されている。

(ロ) 県内集荷は 23,655 百羽でありこれは総出荷羽数の約半数にあたる 47.9%である。

(ハ) 県外出荷については本県は全国有数の出産県であり、総出荷羽数の 52.1%に当る 25,725 百羽が全国各県に出荷されているが、これを地域的にみる

と近畿が 8,137 百羽 (31.6%) で最も多く、次いで九州 7,339 百羽 (28.5%) 中国 4,162 羽 (16.2%) 関東 2,844 百羽 (11.1%) の順で、他の地域は少ない。

これをさらに都道府県別にみると最も多いのが大阪で 3,435 百羽でこれは県外出荷羽数の 13.4%にあたる、次いで兵庫 3,277 百羽 (12.7%) 広島 2,416 百羽 (9.4%) 福岡 1,524 百羽 (5.9%) 長崎 1,392 百羽 (5.4%) 熊本 1,196 百羽 (4.6%) 山口 1,117 百羽 (4.3%) の順となっている。